

おうとうの枝幹害虫コスカシバの「開花前」散布による防除法

コスカシバは蛾の仲間で、幼虫は樹皮下内に食入して樹を衰弱させ、枯死させる場合があります。これまで青森県では、コスカシバ対策の薬剤防除として休眠期散布を指導してきました。しかし、休眠期散布は他作物との作業の競合や、積雪等により実施が困難な場合があります。そこで、(地独)青森県産業技術センターりんご研究所では新たな防除法として開花前散布を検討したところ、高い防除効果が確認されたので紹介します。

☆技術の概要

1. 新たな防除法は、開花前（4月中旬）にフェニックスフロアブル 500 倍液を樹幹部に、薬剤が十分かかるように 10a 当たり 200ℓ を手散布します（図 1）。
2. 樹幹に食入した幼虫に対する殺虫効果及びふ化幼虫に対する樹体への食入防止効果があるため、被害軽減が期待できます（表 1）。

図 1 開花前の防除



表 1 コスカシバに対するフェニックスフロアブルの防除効果 (平成 30 年 青森りんご研県南果樹部)

供試薬剤	希釈 倍数	調査 品種	調査 樹数	虫糞排出か所数 (合計)					蛹及び蛹殻数 (合計)					葉害
				4/23	7/25	8/23	9/26	11/2	4/23	7/25	8/23	9/26	11/2	
フェニックス フロアブル	500倍	佐藤錦	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	なし
		高砂	6	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	なし
無 散 布	—	佐藤錦	5	0	0	7	3	6	0	0	1	1	0	なし
		高砂	6	0	0	12	0	19	0	0	3	1	1	なし

- (注) 1 供試樹：「佐藤錦」(13年生)1区5樹、「高砂」(17年生)1区6樹
 2 薬剤散布：4月23日に動力噴霧機で樹幹に散布
 3 調査方法：4月23日(散布直前)、7月25日、8月23日、9月26日及び11月2日に虫糞排出か所数、蛹及び蛹殻数を調査

☆活用面での留意点

1. 農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認して、使用者責任のもとで使用して下さい。「農薬情報」(https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)「農薬登録情報提供システム」(https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更された農薬は、登録前の変更であっても、変更後の使用方法で使用してください。
2. 散布時期は暦日ではなく、おうとうの生育に合わせて実施してください。
3. 詳細は、(地独)青森県産業技術センターりんご研究所県南果樹部(TEL:0178-62-4111)にお問い合わせください。

(農研機構果樹茶業研究部門 研究推進部 水本文洋)